

令和3年度

高階西小学校だより



学校教育目標 「力を高め・みんななかよく・さあ、やるぞ」 令和3年6月1日 6月号
目指す学校像 ～保護者・地域から信頼される 明るく笑顔あふれる学校～



ラグビーから学ぶ

校長 原田 正則

ラグビーといえば「ワールドカップ日本大会」の印象が強く残っています。日本各地の「おもてなし」に対し、各国の選手などからの感謝が伝えられ、日本のよさが認められて嬉しくなったことが思い出されます。

さて、今号は、ラグビー独特の特徴ある精神などを紹介します。子供たちにとっても、クラスや仲間、集団づくりに関わる大切なことがラグビーから学べます。

その1 フェアプレイの精神

「常に正々堂々ベストを尽くし、勝っておごらず、負けて清く」の精神です。審判は一人しかいないのだから、ごまかして反則することもできますが、絶対にそれをしません。ラグビーは勝つことよりも、いかに立派に戦ったかを評価します。誰が見ていようがまいが、常に変わらず正々堂々とありたいものです。そういう人を育てたいと思います。

その2 No Side (ノーサイド) の精神

ラグビーでは試合終了の合図を「ノーサイド」と呼びます。ノーサイドとは、激しく戦った両方のプレーヤーが、どちらの側(サイド)も無く(ノー)なり、全員一つの友情で結ばれ、健闘を祝し合う仲間であるという意味です。授業中に友達どうしでお互いの考えが対立して討論になったときでも、授業が終われば仲のいい元の友達に戻るという関係があると、授業中も安心して考えを伝え合うことができます。

その3 One for All, All for One (1人はみんなのために、みんなは1人のために) の精神

ラグビーの基本精神です。個人はチーム全体のために自己を犠牲にし、チームは一丸となって個人をサポートします。仲間の困りごとをみんなで心配して解決していく集団に育てたいと思います。また、自分一人でがんばっていると考えるのではなく、いろいろな人々の支えがあって、今の自分があることも感じてほしいと思います。

その4 キャプテンシー

ゲームが始まってしまえば、キャプテンを中心に選手達自らが責任をもってプレーします。試合中、監督は、ベンチはおろかグラウンドわきにいることもできず、観客席から見守るしかありません。ラグビーは、キャプテン(リーダー)の存在価値が他のチームスポーツとは違い、とても大きいことが特徴です。

学校において、授業の主役は子供たちです。授業の中では、子供たちが主体になって、取り組んでほしいと思います。また、授業以外においても、リーダーを中心に、自分たちの力で取り組める集団になってほしいと思います。